

教区新報

第1号

発行
浄土真宗本願寺派
兵庫教区教務所
〒650
神戸市中央区下山手通8丁目
1番1号 本願寺神戸別院内
電話 (078) 341-5949

発刊に際して

このたび新たに教区内の僧侶・門徒より幅広い情報交換の場を設定し、「御同朋の社会をめざして」の目標を掲げ、基幹運動（門信徒会運動・同朋運動）の推進の場といたしたく、基幹運動推進委員会企画推進室が中心となり教区新報を発刊いたしました次第であります。

運動の推進をするとは「本願を信じ、念仏を申す」という浄土真実のみ教えによって『生きていく私』が身体にかけて前へ第一歩ふみ出すことであります。『生きていく私』の生きるということとは「生きる」ということであります。生まれた以上は本当に生ききって行かねばなりません。

ただの長生きということではなく、この長生きが、そのまま阿弥陀様からの命を載いて生きて行く長さである、覚めねばもつたいなく、また生きる喜びも生まれて来ません。生きていく僧侶門徒の方がたが一体となって社会に働きかけて行くとき、伝道という初期の目的が達せられます。



6月23日「教区本願寺参与の集い」総局との協議会より

次号からは、企画推進室委員が執筆します。

兵庫教区教務所長
徳川英範

『同朋講座』を執筆をさせていただくことになったが、その前に一つの事例を報告して大方の御教示をいただきたい。

去る五月、ニューヨークの『自然博物館』の二階にある『アジアの人々』として設けられた一室を見学していたときのことである。室内には日本、韓国をはじめとしてアジア各国の生活を示す資料、遺物が展示されていたがその中で日本に関しては仏壇、衣装・什器、刀剣類の展示品とともに日本の社会階層を『大名、武士、職人、商人』とラックづけた下にカタカナで『エタ』と表示してあるパネルが展示されているのである。

豪華な展示棚のガラス越しにそのパネルを見たとき、ショック、怒り、困

御同朋の社会をめざして

出石組正福寺 山崎 一朗

惑の入り混じった複雑な気持ちであった。

一体、これをどう受けとめたいのだろうか。その前に立って、それは短い時間ではあったが私の中にはこんな思いが入り乱れた。

1. 『博物館』とは、少なくとも一国の文化を象徴する中心ではないか。それがこんな杜撰な展示をして許されることなのか。

たしかにこれは日本という国の江戸時代における身分階層を示したものはあろう。

しかし、それに関する何らの説明も解説もここではなされていない。当時の日本が封建支配下の身分階層社会であったことは確かである。それなればこそこのパネルはそのことを明らかに

解説し、又その中で被支配身分の賤視された人々が『エタ』であり『非人』であったことを明確にすべきではないのか。特に被支配身分のうち『百姓（農）』を欠落させていることはこのパネルの日本の歴史、社会に対する無知を示しているのではないか。

2. それにしてもなぜこのような杜撰なものが展示されねばならないのか。そのように賤称、賤視された身分がかつて存在したということが事実であるならそれを提示することは歴史としてなんの支障もなく、学問の自由であるとも言えよう。しかし、『ことば』には単に学問的用語としての機能だけではなくそのことばが背負っている過去があり、それに接する人々の社会意識に働きかける作用がある。そのことば

一つにかけられた闘争の歴史があり、そのことばによって惹起される民族の差別の実態があり意識がある。そういう点への検討も配慮もなくただ展示するということはこれを訪れる日本人の心理的抵抗など全く無視したものであろう。

悲しいことにこの二字のことは今日でも博物館の中に陳列されるほど色褪せてもいないし、遺物にもなっていないのである。明らかにこの展示のされかたは『差別からの解放』を戦いつづけている他の民族の心情を無視し去ったものである。

3. そんなことを言ってみても主権の全く異なった他国のすることではないか、一々目くじらを立てるほうがどうかしているという声が聞こえぬでもない。

い。しかし果たしてそう考えてすませずしてしまえばよいことなのだろうか。同じようなことが日本の博物館でなされたらどうであろう。世界の民族や人種の一覧表を作り、その民族や人種の一部を蔑称や賤視語で表示した場合、それは過去のことであったなどとすませしてしまうであろうか。きつと激しい非難の声があがるにちがいない。

4. 『国民的課題』といわれ、国がそのことを施策としてからずすでに久しい。おそらく米国にも日本の出先機関なるものも存在しているであろう。そういう地位にある人はこんな展示など見もしないしまた見ても何も感じないのであろうか。『国民的課題』ということは『日本の国内で生活している国民の課題』ということなのであろうか。同じことが私たち教団でも言えはしないか。

『同朋運動』ということを基幹としてこれまた久しい。ニューヨークにも本願寺教団の別院はあるはずである。そこに在る人々はこの事例に全く気づかなかつたであろうか。気付いていても『これは過去の歴史的事実だから否定するわけにはいかない』と黙過してしまつたならそういう歴史観はどこかおかしいのではないか。それともこれまたさきの『国民的課題』と同様に『日本の国内に限定された同朋運動』ということになるのであろうか。

以上は一カ月ほど前の某日、たまたま出会った一つの出来事にすぎない。こんなことをくどくど考える私の方が間違っている、あれはあれなりに博物館としては正当なのだと考えていくべきなのだろうか。

その辺の心の決着がまだすつきりしない。御教示いただきたいものである。帰国後、私は右の旨の書信を博物館あてに出した。もとより回答や返事は期待してはいない。

門徒推進員コーナー



門徒推進員とは名のみにて、お役に立てないのが恥ずかしいです。しかし地方連研、中央教修、定期研修、教区の研修又仏婦での研修と呼びかけお育ていただき心さわやか明るく暮らせる今日此頃本当にありがたく感謝いたして居ます。聞法者は一歩ふみ出せ一歩ふみ出せ」とのお声がいとも耳からはなれません。

揭示伝道又は仏教書等をお進めしているとおしやばりの様に思われ動きにくかったのですが仏教婦人会々長をお受けしてからは、を通じて働きやすくなりました。御同朋御同行と題して会報を出させていただき茶華道の社中又友達にも読んでいただき種が一つぶでもこぼれてくれたならと願うのです。今年三月や地と次男が結婚してくれました。若い二人は家で仏前結婚式をしてほしいと言ってくれたのでご任職にお出いただき儀式で行うことができました。母、夫はとても喜んでくれました。

子供の頃「あまえた、しょうがいた、風呂入ったらとける」とからかわれ又病弱だった私も還暦を迎えることが出来ました。三人の子供が六人になり孫も四人となり子供達が何か祝ってやりたいとの声を聞き、「それでは私の願いを聞いて下さい」とこの

六月十四日、四、七、十、十一才の孫と子供夫婦そろって帰敬式を受けてもらいました。それを見守る八十才と八十六才の母に夫。式の間その後しばらく大雨でした本山でゆつくりしなさいとの仏さまのお心づかいですよと言ってくれる子供達こんなに、すなおに育ってくれた姿を見て一家揃ってご本山にお参り出きなんと私は幸せ者なのかと感無量でした。帰ってからそれぞれ法名に付いて話し合っています。これからどう言うふうに着実に明日に向って感じられます。

小さな小さな芽ですが出てきた様に思います。これからどんな花が咲くかしら、これも皆々様のお蔭です。命ある限り聞法にいそしみ、泣き笑いの人生、家族と共に歩ませていただきます。ありがとうございます。

加古川組教泉寺
岡本節子

合掌

門徒推進員の定義
門徒推進員とは、法座をすすめ基幹運動(門徒法会運動・同朋運動)を推進する者で、所定の研修を経て門徒推進員名簿に登録された者をいう

活動する組をめざして

一 全員一致の教化体制

一市二郡に九ヶ寺の真宗寺院が点在し、圧倒的多数の真言宗寺院と迷信習俗の風土の中で、連帯なくしては、これからの教化、伝道は困難であると思われまます。

個の時代とも呼ばれる今、寺院の孤立化、教化のバラツキや格差を是

正、平均化する意味においても、組内各寺院全員一致の教化体制の早期実現が望まれます。

こうした意味で、淡路組では、まず各住職の意志の疎通の場所作りを、十年前程より二ヶ月に一回の夕食会を含んだ、組内住職会を実施しています。ある時は愚痴話に終止したり、意見の食い違いから怒鳴り合う場面もあり、これといったスベシヤリストもないが、平凡な住職の集いの中から着実に明日に向っての意識作りがなされつつあるように感じられます。

そうした素朴な人間関係をベースに、各教化組織、任職会、寺婦、総代、仏壯、仏婦少年、連研、同朋、社会福祉、テレホン法話、に対する責任分担、(企画立案は、任職全員で、実動を各担当者が荷負うこと)し、一任職が二つ以上の役割をもつことにしている。この中でも連研、少年(一年一度、本山少年念仏奉仕団に参加)は全住職の責任出席、又テレホン法話は昨年、御門主、組巡教を記念し開設、原稿を月三回、当番巡回制で全員に依頼している。社会福祉は毎年その年々に起った問題、例えば、水害、飢餓に対しての義援金、ねたきり老人、長期入院療養者にお見舞(本願寺出版、「こころのおみま」の配布)等、淡路組独自の理念をもって実施しています。

以上特筆することはありませんが、兎に角、千歩の如き歩みの中に、初期の目的を見失わないよう。活動していきたいと思えます。

淡路組 相談員
藤 栄 行 信

伝道 一期一会の人生

中国の残留孤児の方が肉親さがしに何回も日本においでになりました。初め、テレビを見て深く感動しました。テレビで肉親に会いたいと訴えられている姿を見て涙ができました。「お母さん、一目会いたい」「兄弟に一度会いたい」「二度でよいから会わせてください」と泣きながら一生懸命懇願されていました。

肉親と終戦の時に離れ、四十年間会えなかったのです。肉親と会いたいと思う気持ちがあれ程強いものと教えられました。

私には八十才になる母が達者でいます。別に会いたいとは思いません。それはいつでも会えるからです。きつと亡くなったら、会えなくなったら会いたいと思うに違ひありません。

仏教のことばに「生者必滅(せいぜきめつ)と説かれています。生れた者は必ず死が約束されています。出会った者は必ず別れねばなりません。この道理に気づく事が大切なのです。

私達は毎日沢山の人と会っています。それは本当の出会いはないのです。目で見、耳で聞き、手で触れて、会った、聞いた、あったと思っていますが、それは本当ではないのです。悲しい事には迷いの中の事なのです。そらごとたわごとなるものを本当と思ってしまうから、そんなはずでなかったとなき悲しみ苦しむのです。では本当のものは何でしょうか。時間と空間を超えた世界によって気づく世界です。

私達は毎日親子、兄弟それ、何となく暮らしていますが、別れる日が必ずきます。別れを知る事に今日日本に出会っている事に気づくのです。

私は車で遠方へ出かける事が多いのでいつ交通事故にあうかも知りません。家内に出かける時面倒でも出来るだけ大事に送ってくれるよう頼んでいます。毎日、別れがあるので、親孝行しようと思う時、親はなし、墓にふとんもかけられず、という美しい句があります。

二度とない人生です。二度とない今日一日です。二度と会えない今日一日に出会おうのです。

親鸞聖人は本当に生きる道を南無阿彌陀仏と教えてくださいました。

一日々是好日」と本当に生きることです。

佐用組浄宗寺(教区相談員)
富 永 真 哉
(モダン寺テレホン法話より)

- ### テレホン法話ガイド
- モダン寺テレホン法話 (本願寺神戸別院) ☎078-361-0091
 - 勝林寺テレホン法話 (出石組勝林寺) ☎079652-5800
 - 網干組テレホン法話 (網干組長事務所) ☎0792-74-0874
 - 浄専寺浄土真宗テレホン法話 (赤徳南組浄専寺) ☎07914-2-1544
 - テレホン法話正願寺 (加古川組正願寺) ☎0794-37-4133
 - 浄光寺ダイヤル法話 (神崎組浄光寺) ☎0790-32-2260
 - 法親寺テレホン法話 (岡山南組法親寺) ☎0863-32-0040
 - ふれあいテレホン法話乗誓寺 (阪神西組乗誓寺) ☎0798-48-1212
 - 浄土真宗テレホン法話 (淡路組長事務所) ☎0799-23-1313
 - 武庫川モシモシゼミナール (テレホン法話・みほとけとともに) (阪神西組円徳寺) ☎06-416-1212
 - テレホン法話(仏典物語) (城崎組明元寺) ☎07962-3-6393
 - 正光寺テレホン法話 (北摂組正光寺) ☎078-982-2000